

大里 興生（環境科学科3年）、山口 雄大（動物応用科3年）
担当教員：松井 久実、坂西 梓、村山 史世

研究の目的と概要

<目的>

野外調査を通じオオサンショウウオの生態や魅力、オオサンショウウオを取り巻く環境に触れ、その集団が暮らす地域社会の課題や地域の未来について考える。

<概要>

オオサンショウウオは国の特別天然記念物であり、その保全に関して市民の意識を調べるため全国的にオオサンショウウオに関するアンケート調査を実施した。



研究・調査方法

2023年3月島根県で野外調査、同月に岐阜県の高校にてオオサンショウウオの解剖、8月三重県と島根県にて調査を行った。各地で地域住民や関係者との交流を通してオオサンショウウオに対する思いを伺った。また、2023年3月31日から同年9月19日目の期間でGoogleフォームを使い全国的にオオサンショウウオに対する市民の意識のアンケート調査を実施した。アンケートで集めた回答をオオサンショウウオの非分布地域と分布地域で分け、集計し分析した。これらの結果を同年10月に行われた日本オオサンショウウオの会にて口頭発表した。

結果と考察



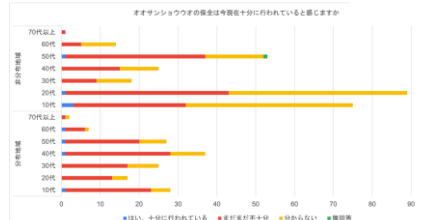
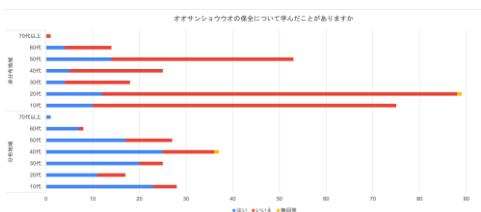
▲調査票

回答者の居住地（一部匿名の居住地データで分類）

	回答者数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	海外
10代	75	1					1		1	
20代	89								2	
30代	58								3	
40代	25								4	
50代	14								8	
60代	1								1	
70代以上	2								1	
合計	244	1	1	1	1	1	1	21	11	13

回答者の居住地（一部匿名の居住地データで分類）

	回答者数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	海外
10代	20	1							1	
20代	17	1							1	
30代	25	1							1	
40代	37	1							1	
50代	27	1							1	
60代	7								1	
70代以上	2								1	
合計	143	20	10	3	5	1	1	1	14	7



オオサンショウウオに関する知識の認知度（多岐選択）

	回答者数	正答選択数			誤答選択数	
		国指定（特別）天然記念物である	個体数が減っている	交雑が問題になっている	魚類である	全国的に分布している
分布地域	10代	28	35.7%	32.1%	14.3%	17.9%
	20代	17	88.2%	82.4%	64.7%	52.9%
	30代	25	92.0%	84.0%	60.0%	44.0%
	40代	37	95.5%	78.4%	78.4%	59.5%
	50代	27	92.6%	70.4%	63.0%	51.9%
非分布地域	60代	7	100.0%	42.9%	85.7%	42.9%
	70代以上	2	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
	10代	75	73.3%	76.0%	28.0%	6.7%
	20代	89	77.5%	79.8%	37.1%	11.2%
	30代	18	88.9%	88.9%	50.0%	22.2%
非分布地域	40代	25	88.0%	76.0%	52.0%	40.0%
	50代	53	94.3%	81.1%	54.7%	20.8%
	60代	14	78.6%	71.4%	28.6%	7.1%
	70代以上	1	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

<結果>

- ・非分布地域では保全について学んだことがない人が多い。
- ・非分布地域では保全の現状について分からないと回答している人が多い。
- ・分布域の人々にとって身近な存在と認知し全国に分布していると思っている人の割合が高い。
- ・非分布域では魚類と思っている人の割合が高い。

<考察>

非生息地域と生息地域では保全の意識では明確な違いは見られるものの、今後も保全の継続をしていくべきという考えは地域問わずある。

これから

今回の研究でオオサンショウウオの魅力や地域性を学ぶ事ができ、国の特別天然記念物としてオオサンショウウオの保全を深く考える事ができた。また、全国規模でオオサンショウウオに対しての意識調査を行い、市民がオオサンショウウオに対してどのような思いを持っているのかが調査できた。今後の研究としてオオサンショウウオ生息域の地域と人に注目した研究を行いたい。

